



PRESS RELEASE — 2025.11.04

名品展 The Best of Museum Collection

Red and White Plum Blossoms

国宝「紅白梅図屏風」

2026年1月30日|金|–3月18日|水| 展示室1–5

国宝3件を同時公開

MOA美術館のコレクションは、創立者・岡田茂吉(1882～1955)が蒐集した日本・中国をはじめとする東洋美術を中心構成されています。その内容は、絵画、書跡、彫刻、工芸等、多岐にわたり、各時代の美術文化を語る上で欠くことの出来ない作品を含んでいます。本展では、「紅白梅図屏風」をはじめ京焼の大成者・野々村仁清作「色絵藤花文茶壺」、三大手鑑の一つとして著名な手鑑「翰墨城」の国宝3件の同時公開に加え、コレクションの各ジャンルを代表する名品を精選して展観します。梅花咲き誇る早春、隣接する瑞雲郷梅園とともにぜひご鑑賞ください。

MOA美術館

広報担当: 上権、石倉 TEL 0557-84-2567 Email: moaart-info@moaart.or.jp

HIGHLIGHTS OF THE EXHIBITION

展示の見どころ

国宝3件を同時公開

隣接する瑞雲郷梅園の見ごろにあわせ、国宝「紅白梅図屏風」を含むMOA美術館を代表する国宝3件を同時公開します。



国宝 紅白梅図屏風 尾形光琳 江戸時代（18世紀）

尾形光琳は「風神雷神図屏風」で有名な俵屋宗達の作品を身近に接し、その感化を受けながら、独自の画風を築き上げたと言われています。後に光琳梅として愛好される花びらを線書きしない梅花の描き方や蕾の配列、樹の幹にみられるたらし込み、更に他に類を見ない筆さばきをみせる水の文様など、優れた要素が結集しています。



国宝 色絵藤花文茶壺

野々村仁清 江戸時代（17世紀）

京焼の祖といわれる野々村仁清の代表作が色絵の茶壺です。本作は仁清の茶壺の中でも最高の傑作として名高く、京風文化の象徴的作品ともいえます。温かみのある白釉地の上に、咲き盛る藤の花が巧みな構図で描かれており、花と蔓は赤や紫・金・銀などで彩られています。バランスのとれた端正な姿は、色絵の文様とよく調和しています。



国宝 手鑑「翰墨城」

奈良～室町時代（8～15世紀）

厚紙の表裏に奈良時代から室町時代までの宸翰（天皇の書）、能筆の書など合計311葉の古筆切を貼り込んだ折帖です。表紙に付された「翰墨城」の題が烏丸光広（1579～1638）の筆と目されることから、江戸時代初期の編纂と考えられています。本作は古筆鑑定を代々の生業とした古筆別家13代古筆了仲（1820～1891）に伝わり、のちに近代を代表する茶人・益田鈍翁（1847～1938）が旧蔵しました。

EXHIBITION COMPOSITION

展示構成

会場では、作品の順番が前後する場合があります。
また、展示内容は予告なく変更される場合があります。

1 | 和様の書と蒔絵の意匠

平安時代は、宮廷を中心に貴族文化が爛熟して和様の美を作り上げました。なかでも平安後期は王朝時代とも称されて、「調度手本」として美麗な装飾経、冊子や巻物が制作されました。10世紀ごろには藤原行成ら能書により和様の書が成立し、工芸技術の粋を尽くした料紙装飾とともに宮廷の室礼を彩りました。蒔絵調度では、宮廷の生活を彩る調度として完成された和様の意匠が完成しました。宮廷貴族の暮らしから生まれた王朝の美は後の時代にも受け継がれ、鎌倉時代には日本の風景や和歌の意匠をもつ作品が制作されています。ここでは、当館を代表するコレクションの一つ国宝「翰墨城」とともに、重要文化財「山水人物蒔絵手箱」など和様の意匠を踏襲する蒔絵の名品をご紹介いたします。

築後切 伏見天皇（国宝「翰墨城」所収）

上下に紫の織維を漉き込んだ打雲紙に『後撰和歌集』巻6、秋中を書写した巻子本の断簡。筆者の伏見天皇は鎌倉時代の第92代天皇で、歴代屈指の能書としても名高い。本作では藤原行成の書風を思わせる端麗な仮名が、大振りに伸びやかに書かれている。現存する『後撰和歌集』巻末の奥書から永仁2年（1294）、伏見天皇30歳ごろの筆であることがわかる。

石山切 伝藤原公任（国宝「翰墨城」所収）

西本願寺伝來の「伊勢集」を分割したもので、弾力的で太く細く、リズミカルに料紙の上を走る筆跡の古筆切。料紙は波模様の唐紙に蝶、鳥に草木を散らしたもので、右方に破り継ぎがあり、料紙装飾の粋が凝らされている。明治29年に冊子として発見され、昭和4年に分割された古筆切の一つで、分割に携わった益田鈍翁が「翰墨城」の欠落部分に貼り加えたとみられる。

重要文化財「山水人物蒔絵手箱」 鎌倉時代（14世紀）

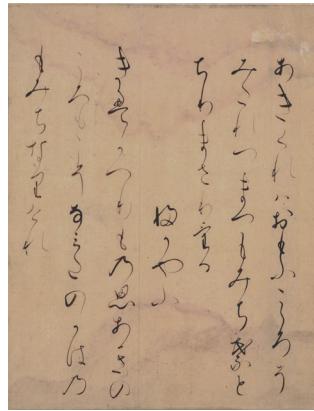
大型で量感のあるかたちに、梨地（金粉を蒔いた地）に高蒔絵、研出蒔絵、付け描きなどの蒔絵の各種技法を併用して図様をあしらった鎌倉時代の手箱。四側面から蓋の表裏に至るまで、土坡に樹木、鳥などを配した伝統的な意匠に蛇籠などの名所絵的な景物が全面に描かれている。景観の中には手綱を担ぐ漁夫、米俵を運ぶ牛と農夫なども描き込まれ、人々の営みまで生き生きと描写されている。

重要美術品 波千鳥蒔絵硯箱 室町時代（16世紀）

被蓋造の硯箱。蓋表に表された波と千鳥の文様は、『古今和歌集』の歌「しほの山さしでのいそにすむ千鳥 きみがみよをばやちよとぞなく」を表したもの。室町時代にみられる和歌、説話をモチーフとした意匠で、空と海がほぼ相半ばする構図が特徴的な作品。

[その他の出品作品]

重要文化財「散蓮華蒔絵経箱」鎌倉時代（13世紀）



築後切 伏見天皇（国宝「翰墨城」所収）



石山切 伝藤原公任（国宝「翰墨城」所収）



重要文化財 山水人物蒔絵手箱 鎌倉時代（14世紀）



重要美術品 波千鳥蒔絵硯箱 室町時代（16世紀）

2 | 日本絵画

MOA美術館のコレクション中的一角を占めるのが、国宝「紅白梅図屏風」を含む中世から近世に至るまでの絵画作品です。ここでは、鎌倉時代に王朝の美の系譜を継ぎ、宮廷貴族たちの間で流行した「似絵」から、江戸時代初期に制作された風俗画に至るまで、絵画史の片鱗を知ることのできる名品をご紹介いたします。

重要文化財 「源重之像 上畠本三十六歌仙切」 鎌倉時代(13世紀)

平安時代の歌人36人に、それぞれの詠んだ和歌を添えた「歌仙絵」の一つで、もとは絵巻物仕立てであったものの断簡(だんかん)で、歌人がみな上畠(貴人専用の畠)に坐す姿で描かれているところから、上畠本と称される。鎌倉時代の似絵(にせえ)の名手の作品と考えられ、「佐竹本」に並び現存最古の歌仙絵と言われている。

重要文化財 白衣観音図 吉山明兆 室町時代 応永32年(1425)

禅宗においてひろく信仰の対象であった白衣観音を描いた作品。明兆は南北朝時代から室町時代にかけて活躍し、日本絵画の歴史において重要な役割を果たした絵仏師。活躍当時より江戸時代ごろまでは雪舟と並び高く評価され、「画聖」と称された。落款から明兆が74歳に描いたとわかり、老年の作風を物語る基準作として貴重な作品。

重要文化財 四季山水図屏風 海北友松 桃山時代(17世紀初期)

八曲屏風一双という横長な大画面にさまざまな景物を配し、それらの間を広々とした水景で結んでいる。海北友松(1533～1615)は、近江国坂田郡の人で、父は浅井長政の家臣。中国の宮廷画家・梁楷の作風に学び、少ない筆数で山水や人物を描写する減筆体を特徴とした。落款と作風から最晩年の作風とみられる。

重要文化財 湯女図 江戸時代(17世紀)

京や江戸で元和・寛永年間(1615～44)に流行した湯屋で働く六人の湯女を描いた作品。華麗な衣裳を身にまとった湯女たちの風俗と生活を生き生きと描写しており、日本絵画史において庶民風俗が画題として注目され、やがて一人立ちの人物像が生まれるまでの過渡期的な作品と位置付けることができる。

[その他の出品作品]

重要美術品 源三位頼政像 鎌倉時代(13世紀)

重要文化財 洋人奏楽図屏風 桃山時代(16世紀)



重要文化財 源重之像 上畠本三十六歌仙切
鎌倉時代 (13世紀)



重要文化財 湯女図 江戸時代 (17世紀)



重要文化財 四季山水図屏風 (右隻) 海北友松 桃山時代 (17世紀初期)



重要文化財 白衣観音図 吉山明兆 室町時代 応永32年 (1425)

3 | 仏教美術

わが国の仏教美術は、中国大陸や朝鮮半島から多大な影響を受けながら独自の発展をしました。とくに平安前期(9世紀)には、空海以後の密教の展開に伴って教理の表現としての絵画、彫刻が生み出されました。法具等の造形美術、平安時代後期から鎌倉時代にかけては、末法思想の流行による浄土教美術の興隆や、武士の気風に合った禅宗文化など、時代の信仰とともに多彩な表現が花開きました。

[主な出品作品]

- ・重要文化財「聖観音立像」 奈良時代(8世紀)
- ・重要文化財「北方天眷属像」 鎌倉時代 文永4年(1267)
- ・重要文化財「阿弥陀如来及両脇侍坐像」 平安時代(12世紀)



重要文化財「北方天眷属像」
鎌倉時代 文永4年(1267)



重要文化財「聖観音立像」
奈良時代(8世紀)

4 | 近代美術

時代の大転換期となった明治時代には、大きな後ろ盾であった諸大名や公家等の主要なパトロンが衰退し、日本美術を取り巻く状況も激変する中、伝統的な美術・工芸を次世代に伝える機運が高まりました。明治から昭和初期には帝室(皇室)による美術工芸作家の顕彰制度として帝室技芸員が設けられました。絵画では橋本雅邦、竹内栖鳳、工芸では白山松哉、平櫛田中等が選定され、それぞれの分野において優れた技を發揮し、美術・工芸の継承発展に寄与しました。

[主な出品作品]

- ・竹内栖鳳 翠竹野雀 昭和8～9年(1933～1934)頃
- ・白山松哉 蝶牡丹蒔絵沈箱 明治時代 19世紀
- ・板谷波山 萩光彩磁和合文様花瓶 1910年代後半



竹内栖鳳 翠竹野雀 昭和8～9年(1933～1934)頃



白山松哉 蝶牡丹蒔絵沈箱 明治時代 19世紀



板谷波山 萩光彩磁和合文様花瓶
1910年代後半

VISUALS FOR THE PRESS

広報用画像

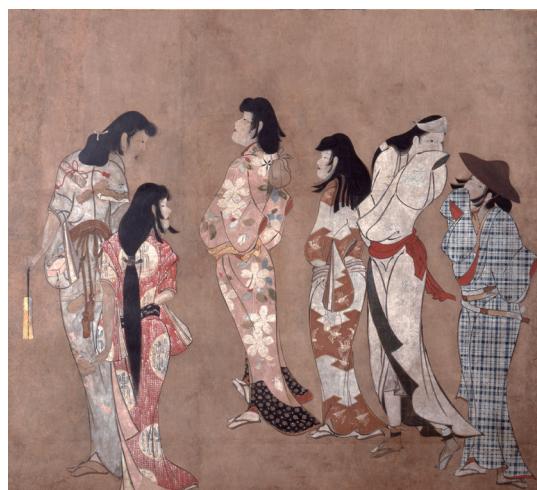


1. 国宝 紅白梅図屏風 尾形光琳 江戸時代（18世紀）



2. 国宝 色絵藤花文茶壺
野々村仁清 江戸時代（17世紀）

3. 国宝 手鑑「翰墨城」
奈良～室町時代（8～15世紀）



4. 重要文化財 山水人物蒔絵手箱
鎌倉時代（14世紀）

5. 重要文化財 湯女図
江戸時代（17世紀）

INFORMATION

お問い合わせ

展覧会概要

展覧会名：名品展 国宝「紅白梅図屏風」

会期：2026年1月30日|金| – 3月18日|水|

会場：MOA美術館 展示室1 – 5

〒413-8511 熱海市桃山町26-2 TEL: 0557-84-2511 URL: <https://www.moaart.or.jp>

開館時間：午前9時30分 – 午後4時30分(入館は午後4時迄)

休館日：木曜日

観覧料：一般2,000(1,800)円/高大生1,400(1,200)円・要学生証/中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金 ※障がい者手帳をお持ちの方と付き添い者(2名まで)無料

※前売り券は、お近くのコンビニエンスストア(セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート)でもお求めいただけます。

交通：JR東海道新幹線・東海道線 熱海駅下車、駅前バスターミナル⑧番乗り場よりMOA美術館行約7分終点下車

広報画像のお申し込み

広報画像をご希望の方は、①貴社名 ②ご所属 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス ⑦媒体名 ⑧掲載・放送予定日 ⑨掲載概要 ⑩貸出希望画像番号を記載の上、下記担当までお申し込みください。

〈広報画像取扱いに関する規定〉

◎広報画像はすべてMOA美術館を紹介する場合に限ります。事前の申請・承諾なく二次利用いたしません。

◎広報画像を紹介する場合には、指定されたクレジットを併記します。

◎トリミング、変形、部分使用、文字のせは無断で行いません。

◎〈広報画像取扱いに関する規定〉に承諾のうえ、画像申込みを行います。

〈個人情報の取扱いについて〉

ご記載いただきました個人情報は、広報からの情報発信やご案内など必要なご連絡にのみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。

MOA美術館 広報担当：上権、石倉

TEL 0557-84-2567

Email: moaart-info@moaart.or.jp

MOA美術館

〒413-8511 熱海市桃山町26-2 TEL: 0557-84-2511
<https://www.moaart.or.jp>